

第3回

三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会

すこいやんか
三重のいなかビジネス
展開事業

聖地熊野の人・自然・歴史

～あなたならこの宝物をどう魅せますか～

in 熊野

報告書



◆開催日 平成26年9月11日(木)～12日(金)

◆主会場 入鹿温泉ホテル瀬流荘

主催 三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会実行委員会、三重県
奥熊野エリアガイドコミュニティ kumateng

後援 熊野市、御浜町、紀宝町、熊野市観光協会、熊野市観光公社、
NPO法人日本グリーン・ツーリズムネットワークセンター

目 次

開催概要	2
分科会	3
交流会	6
主催者・来賓あいさつ	7
基調講演	8
パネルディスカッション	9

開催概要

■開催趣旨

「グリーン・ツーリズム」や「いなかビジネス」など、都市と農山漁村の交流を通じた地域活性化に取り組む実践者が連携・交流を深め、農山漁村の魅力を再発見するとともに、新たな魅力を県内外へ情報発信していくため、世界遺産登録10周年をむかえた熊野において第3回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会 in 熊野を開催しました。

■開催日 平成26年9月11日（木）～12日（金）

■主会場 入鹿温泉ホテル瀬流荘

■主催 三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会実行委員会、三重県
奥熊野エリアガイドコミュニティ kumateng

■後援 熊野市、御浜町、紀宝町、熊野市観光協会、熊野市観光公社、
NPO法人日本グリーン・ツーリズムネットワークセンター

■参加者 102名

■大会プログラム

■9月11日（木）

13:00 分科会

第1分科会 須野コース

第2分科会 松本峠コース

第3分科会 御浜コース

第4分科会 石本果樹園コース

第5分科会 川船体感コース

19:00 交流会

■9月12日（金）

9:00 開会

9:20 基調講演

演題「本物こそが大事！生き残るための魅力発信！」

演者 奥田裕久（NPO法人サルシカ代表）

10:30 パネルディスカッション

テーマ「熊野のお宝ザクザク！～分科会を掘り下げる～」

11:55 閉会式

分科会

熊野地域（熊野市、御浜町、紀宝町）でグリーン・ツーリズムや地域活性化に取り組んでいる分科会のガイド。熊野を訪れた人たちに、この美しい自然、豊かな文化、おいしい食べ物など「ほんとうの熊野」を体感していただきたいと考えて、日々体験プログラムに取り組んでいます。その活動をとおして地域の魅力発信についてともに考える5つの分科会。それぞれ有意義な視察と意見交換が行われました。



■ 第1分科会（須野コース）

「箱庭のまち」と例えられる熊野市の須野を歩きました。限界集落ながらも、豊かな自然や歴史に恵まれている須野。この地に住む濱田直美さん、志水咲恵さんらのガイドで須野を歩きました。



こんなツアーは初体験



それにしても美しい海



生活体験「薪割り」

人口なんと5人の須野で、幸せな暮らしを営む住人の生活を垣間見る分科会。空き家が目立つものの、美しく手入れされた集落。そして美しい自然とその恵み。限界集落という言葉からは想像できない、そこに住む人々の幸せな暮らしぶりに、参加者にとっても考えさせられることが多い分科会でした。

■第2分科会（松本峠コース）

熊野古道・松本峠。美しい石畳が残る峠を kumateng の下浜興一郎氏らのガイドで歩きました。鬼ヶ城や紀南ツアーデザインセンター、獅子岩、お綱茶屋を散策した後、三重県熊野庁舎で意見交換しました。



鬼ヶ城に立ち熊野灘を臨む



暑い中、松本峠を登りました



熱心な意見交換

ただ歩くだけでは気づかなかったことに気づく。ガイドの役割の重要性を実感していただいた分科会でした。熊野地域で活動する参加者にとっても、新たな発見があったようです。参加者の地元にも多くの魅力がありますが、その伝え方について考えていただくことができました。

■第3分科会（御浜コース）

熊野古道の横垣峠と、美しい田園風景が広がる紀州犬発祥の地・阪本地区を、横垣・風伝峠保存会の亀田昭治氏らの案内で散策しました。また、地域の農産物を販売する山村振興施設「さぎりの里」を見学しました。



さぎりの里からスタート



大好評、紀州犬のガイドさん



横垣峠への道を歩く

地元の生産物や加工品のみ扱うことで人気の「さぎりの里」、この地域で生産される「尾呂志米」、古くから猟犬として生活をともにしてきた「紀州犬」など、地域の生活や文化について、ガイドの案内を受けながら散策しました。ガイドも農業生産も後継者ができるかどうか、それが共通した課題でした。

■第4分科会（石本果樹園コース）

みかん作りの盛んな紀宝町で、地域の若手農業者・石本慶紀氏が実践する果樹園トレッキングを体験しました。農業におけるグリーン・ツーリズムの可能性を考える分科会。新たな視点で農業を見ていただきました。



熊野灘をバックに記念撮影



三代続く農園のみかん



ウミガメ公園で意見交換

道の駅ウミガメ公園から歩いて行ける kumateng 会長、石本慶紀氏の農園。その石本氏のガイドで、果樹園を歩きました。参加者は、地元で様々な体験メニューに取り組んでいますが、ガイド料の設定やお客さんの送迎など、運営面についても意見交換される有意義な分科会でした。

■第5分科会（川船体感コース）

川の熊野古道として世界遺産に登録された熊野川を、伝統の三反帆（川船）で下りました。悠久な川の流れと、今に生きる伝統技術が織りなす熊野の魅力。その魅力を伝える谷上嘉一氏らによる活動を体感していただきました。



悠々と川を下る三反帆



熊野川体感塾が拠点



工房で意見交換

世界遺産登録10周年を迎えた熊野古道ですが、さらに集客に結びつけていくため、今の活動を続けている第5分科会ガイド、熊野川体感塾の谷上氏。途中、雨にも降られましたが、熊野川を下りました。修復作業も済んでいない3年前の台風被害も見られるなど、地域の実情も伝える分科会でした。

交流会

総勢66名が参加した交流会。入鹿温泉ホテル瀬流荘の会場がいっぱいになる大交流会でした。みなさんに自己紹介をしていただき、グリーン・ツーリズムを実践する方どおし、しっかり交流と意見交換をしました。この交流の輪が今後も続き、大会の成果となっていくことを期待します。



三重県農林水産部長のあいさつでスタート



乾杯は第1分科会ガイドの濱田さん



参加者のみなさんも自己紹介で交流のきっかけ作り



岩手県久慈市からの参加者4名とも大いに交流



久慈市「まめぶの家」谷地さん自らふるまう「まめぶ汁」



歴代実行委員長も参加して交流しました



会場には写真師松原さんが撮影した熊野の写真を展示



会場いっぱいの参加者。今後の連携に向けて交流を深めました

主催者・来賓あいさつ

三重県農林水産部・橋爪彰男部長からの主催者あいさつに続き、地元の熊野市観光協会・中平孝之会長、三重県議会・藤根正典議員より歓迎のごあいさつをいただきました。また、大会実行委員会・石本慶紀会長よりお礼のごあいさつをいたしました。



三重県農林水産部
橋爪彰男部長



熊野市観光協会
中平孝之会長



三重県議会
藤根正典議員



石本実行委員長

「第3回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会 in 熊野」を無事開催させていただきました。私たちは、今後も地域の魅力を活かした各種体験プログラムを推進してまいります。今大会は、その課題をみなさまと共有できた大切な時間になりました。この大会が三重県のグリーン・ツーリズムが発展していくきっかけになることを願っております。スタッフ、ご来賓の皆様、そしてご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

大会アンケート結果（回答数36）

1. 今後の活動に活かせる内容でしたか。

選択肢	回答数		
	分科会	基調講演	パネルD
十分活かせる	14	17	17
一部活かせる	15	11	12
あまり活かさない	3	1	2
活かさない	0	0	0

2. 自由意見（抜粋）

- ・分科会のコースがよく吟味され、内容が濃かった。
- ・どの地域も模索しながら取り組んでいることが知れてよかった。
- ・初日から講師やパネリストと交流できたので、講演もよく理解できた。
- ・熊野の取組は、ガイドが魅力的だった。
- ・パネルディスカッションの進め方が斬新だった。
- ・地元の参加者がもっと多ければ地域の活性化に役立つと考えられた。
- ・もう少し意見交換の時間が長ければよかった。

基 調 講 演

演題 「本物こそが大事！生き残るための魅力発信！」

演者 奥田裕久氏（NPO法人サルシカ代表）



概要

①講師の活動

サルシカは、三重県の魅力を伝えるため、都市部へ情報発信を続けています。サルシカが運営する「ゲンキ3ネット」は、テレビやラジオと連動して広報を支援するウェブサイト。顔の見える情報にこだわって発信しています。

②やること自体が目的になっていませんか

目的やターゲットを考えず、むやみやたらにイベントをしている例もみられます。やること自体に満足していないでしょうか。目的を確認してスタートすることが大事。これからの計画も話し合う必要があります。イベントをこなすばかりではスタッフも疲れてきます。



③事例を交えてポイントをお伝えします

次のような事例から、明確でぶれないターゲットを設定し、地域に根ざし、集客につながる仕組みをもち、うまくメディアを活用することが重要だと分ります。

- ・フードフードマーケット（伊賀市）
「商店街の再生」という目的が明確で、そのための手段としてマーケットを開催。ターゲットも30～40歳代の女性と絞り込んでいる。
- ・麻生の浦会（鳥羽市）
地元の女性中心に取り組み、お客さん目線で販売していて、メディアもうまく活用している。
- ・孫太郎オートキャンプ場（紀北町）
女性限定バンガローがあるなど、いかに女性に来てもらうか考えている。

④本物こそが大事

あらためて考えてほしいのは、地元のものなら何でも褒めていないかということ。「地元あげ底」をするのはやめよう。期待を裏切らない本物の魅力を見つけ、ターゲットを絞ってPRすることで、地域の魅力は伝わっていきます。

パネルディスカッション

テーマ 熊野のお宝ザクザク！～分科会を掘り下げる～

■コーディネーター

奥田裕久氏（NPO法人サルシカ代表）

■パネリスト

中平孝之氏（熊野市観光協会長）

松原豊氏（写真家）

石本慶紀氏（石本果樹園代表・大会実行委員長）



コーディネーター 奥田氏

概要

①分科会の感想

分科会参加者が記入した「分科会チェックシート」の意見なども交えて議論。体験できたことは満足だが、逆にお話だけで実物がなかったものは残念。ガイドの魅力や実力は感じられたが、声が聞こえにくいなど、運営面で改善の余地がある。実践者同士で指摘しあえて有意義な意見交換だった。



パネリスト

左から松原氏、中平氏、石本氏

②グリーン・ツーリズムとは

根源的な話題へと議論が展開。定義はあるものの、人によって捉え方は様々。同じような取組をしても「エコ・ツーリズム」といつている地域もある。また、グリーン・ツーリズムだけで生計を立てるのは難しく、農業など本業あつてのグリーン・ツーリズムということが現状。



分科会ガイドのみなさん

③これからのグリーン・ツーリズム

まだまだ利益を出せていないという意見が出たグリーン・ツーリズム。その発展のためには行政との連携に期待する声もあるものの、行政機関によってはグリーン・ツーリズムの認知度が低いところもある。今回の三重県大会もまだ第3回なので、三重県のグリーン・ツーリズムは、これからみんなで成長させていこう。



○×のパネルを使って進行

■大会事務局

三重県農林水産部 農業基盤整備課

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL : 059-224-2551

FAX : 059-224-3153

E-mail : nokiban@pref.mie.jp